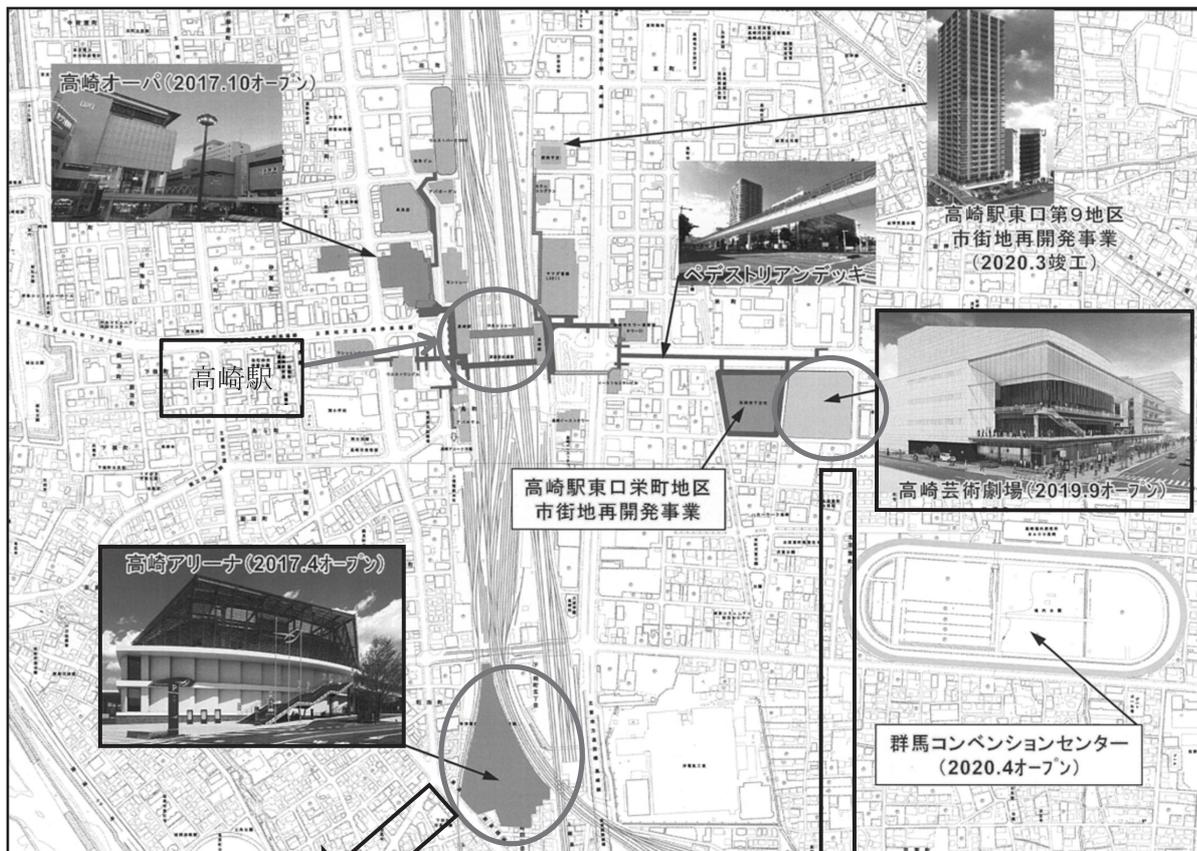


都市整備対策特別委員会行政調査報告から

【高崎市】

JR高崎駅周辺地区整備について

高崎市は、平成22年に策定した高崎都市集客戦略ビジョンにおいて、市全体を集客都市（コンベンションシティ）と位置づけ、人・もの・情報などの「交流」と、新たな芸術・文化や科学技術などの「創造」を都心部へ集積させ、それを市域全体に波及させていくという将来像を明確化し、交通拠点であるJR高崎駅周辺地区にあった日本製粉工場跡地に新体育館「高崎アリーナ」を整備（29年4月供用開始）するとともに、多様なニーズに対応したコンベンション施設や音楽ホールなどの都市集客施設の整備を進めている。



【高崎アリーナ建設事業の概要】

敷地面積：21,992.43㎡
 延床面積：26,312.06㎡
 事業期間：平成24年度から28年度
 総事業費：約160.5億円
 （本体：約142.2億円，外構：約7.7億円ほか）
 整備スケジュール
 設計：25年3月～25年12月
 建設工事：26年6月～28年12月
 外構工事：27年3月～29年3月
 開館：29年4月1日

【高崎芸術劇場建設事業の概要】

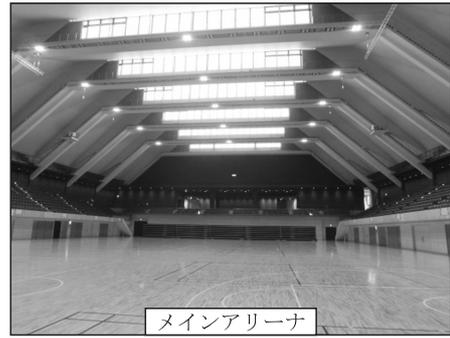
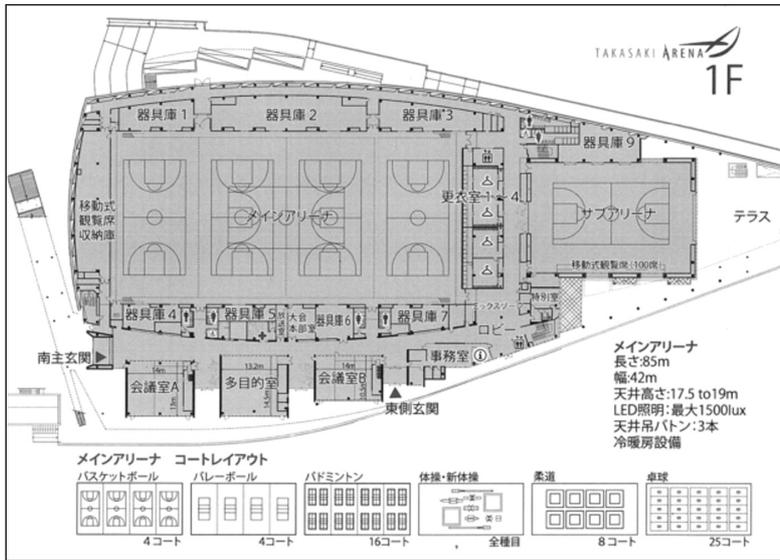
敷地面積：10,983.22㎡
 延床面積：27,355.15㎡
 事業期間：平成25年度から30年度
 総事業費：約279.8億円
 （工事：約260.2億円，設計：約5億円ほか）
 整備スケジュール
 基本設計：26年1月～26年10月
 実施設計：27年1月～27年12月
 建設工事：28年6月～31年3月
 開館：31年9月（予定）

1 高崎アリーナに係る経過

年 月 日	内 容
24年7月25日	市議会：都市集客施設調査特別委員会「新体育館建設予定地概要」報告
24年9月21日	新体育館建設市民懇談会（委員16名）の開催 以降、25年5月13日まで計6回開催 委員（市体育協会（会長，副会長，理事ほか），市婦人会連合会会長，市区長 会会長，市PTA連合会副会長，高崎マーチングフェスティバル協会理事長， 市バスケットボール協会会長，商工会議所（会頭，副会頭），ボーイスカウト 高崎地区協議会会長，公募委員）
24年11月27日 ～12月27日	新体育館基本計画（案）に対するパブリックコメント実施（19名・50件）
24年12月12・13日	新体育館建設 地元区長説明会
25年1月9日	新体育館建設 地元説明会（出席者34名）基本計画の説明
25年1月21日	新体育館建設設計者選定プロポーザルの公告 延床面積：約18,000㎡，概算建設費：約85～90億円 設計者選定委員会の審査に基づき，(株)山下設計を選考
25年4月19日	市議会から「高崎市新体育館建設事業にかかる要望書」提出 ・4項目71要望，14質問
25年5月7日	新体育館建設 地元説明会（出席者32名）設計者の提案説明
26年4月3日	新体育館建設工事技術提案型総合評価一般競争入札の実施
26年5月31日 6月1日	新体育館建設 地元説明会（南地区：18名，城南地区：35名） 実施設計の概要を説明
26年6月20日	市議会：特別委員会 工事請負契約議案の説明
26年7月23日	新体育館起工式
26年7月25・26日	新体育館建設工事説明会（南地区：22名，城南地区：21名）
26年9月4日	文化芸術センター及び新体育館建設・運営アドバイザー会議（委員13名）の 開催 委員（群馬音響楽団音楽監督，東京芸術劇場副館長，国際体操連盟国際審判 員，国立オリンピック記念青少年総合センター所長代理，市体育協会会長， 商工会議所会頭，大学教授，三菱地所(株)相談役，榛名の森カントリークラブ 支配人，東京オリンピック体操女子団体銅メダリスト（相原俊子），ソフトボー ル元日本代表監督（宇津木妙子））
28年2月24日	新体育館の名称が「高崎アリーナ」に決定
28年12月22日	新体育館建設工事（本体）竣工
29年3月17日	新体育館外構工事竣工
29年3月25日	高崎アリーナ完成記念式典開催
29年4月1日	高崎アリーナオープニングセレモニー

2 高崎アリーナの概要

1 F



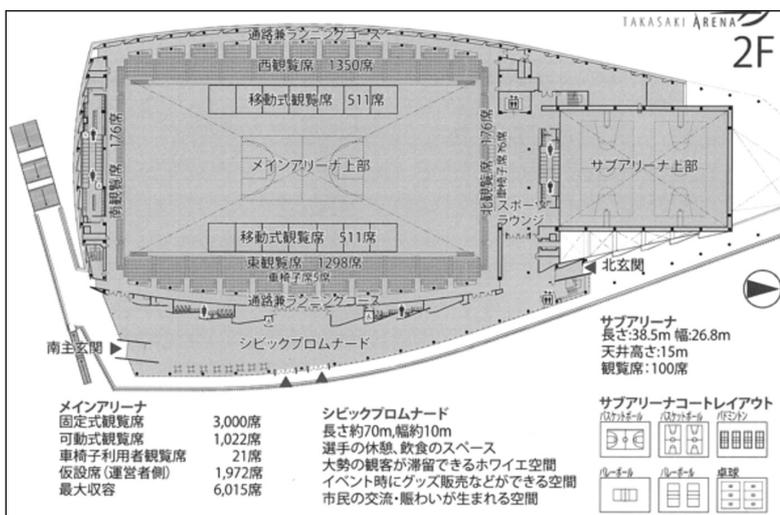
メインアリーナ



サブアリーナ

施設名	施設規模	競技種目
メインアリーナ 最大6,015名収容	有効スペース：42m×85m 天井高：17.5m～19m 固定席：3,000席 移動式観覧席：1,022席 車椅子席：21席 ランニングコース：1周285m	バスケットボール：4面 バレーボール：4面 バドミントン：16面 卓球：25面 体操・新体操ほか
サブアリーナ	有効スペース：26.8m×38.5m 天井高：15m 観客席：100席	バスケットボール：1面 ミニバスケットボール：2面 バレーボール：1面 バドミントン：4面 卓球：6面 ほか

2 F

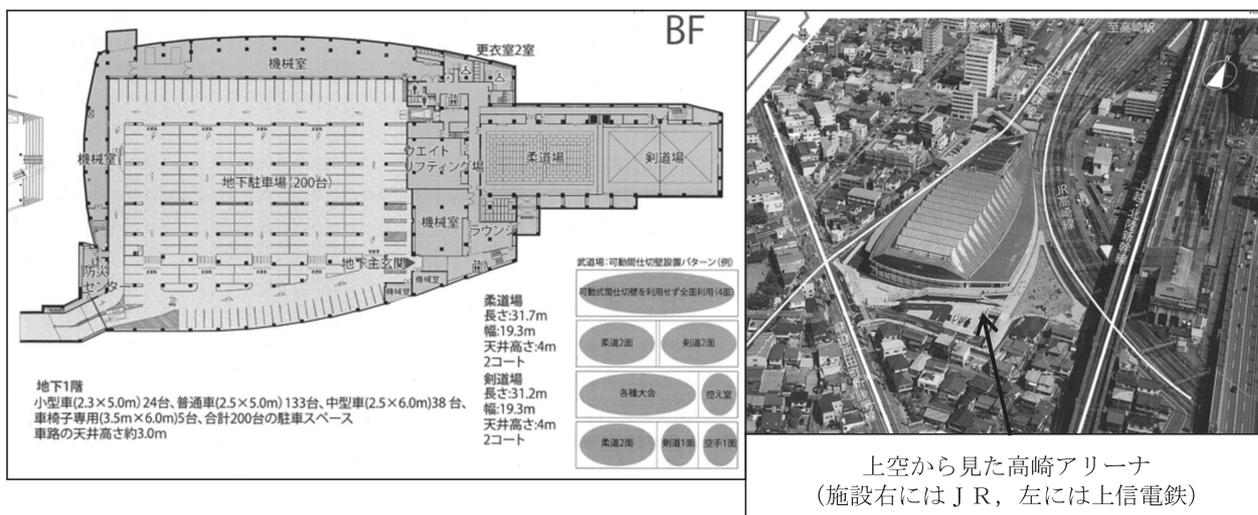


シビックプロムナード：多目的利用可能



東出入口：新幹線やJR高崎線が間に

施設名	施設規模	競技種目
柔道場	有効スペース：31.7m×19.3m 天井高：4m，観覧席	柔道：2面
剣道場	有効スペース：31.7m×19.3m 天井高：4m，観覧席	剣道：2面
ウェイト リフティング場	有効スペース：15.8m×13.2m 天井高：4m	プラットフォーム トレーニングプラットフォーム
多目的室	有効スペース：14.5m×13.7m 天井高：3.9m	ダンス バレエ ほか
会議室	会議室A：14m×13m 会議室B：14m×10.5m	会議室Aは2分割可能 会議室Bは3分割可能
駐車場	200台（高さ制限：2.3m）	—



3 駐車場・渋滞対策，今後の課題など

- ・高崎アリーナから約500mの市城南総合運動場内に立体駐車場を整備し，500台分の駐車場を確保（総事業費：約8億円，供用開始：平成29年3月25日）するとともに，高崎アリーナと高崎駅を結ぶシャトルバスを運行（15分間隔・@100円）。
- ・高崎アリーナは敷地の都合上，JR高崎線，上越・北陸新幹線及び上信電鉄に挟まれた位置にあり，県道と90mしか接していないことから，施設手前に左折レーンを設けるとともに，地下駐車場の入口をできるだけ施設内に引き込むことで，渋滞を避けるよう努めている。
- ・開館当初は，全国規模（6,000名）の大会時には，近隣住民から渋滞に関する苦情も寄せられたが，誘導看板の設置等のほか，公共交通機関利用の周知が図られつつあることから，現在，ほとんど渋滞は発生していない。
- ・29年度は各種競技の全国大会やコンサートの開催などにより，年間で約24万5千人の利用があった。今後，東京オリンピックへ向けて，関東近辺の複数の体育館が大規模改修のため，利用できないことから，高崎アリーナに対する需要は今後ますます高まるものと考えている。

4 都市集客施設整備（高崎芸術劇場）に係る経過

年 月 日	内 容
22年 4月20日	都市集客施設整備検討委員会（庁内組織）設置
22年 4月26日	都市集客施設整備検討委員会作業部会開催（23年1月まで計9回開催）
22年 6月2日	都市集客施設整備検討委員会開催（22年11月まで計3回開催）
22年12月8日	市議会定例会：「高崎市都市集客戦略ビジョン」公表
23年 4月13日	高崎都心まちづくり研究会開催（23年7月15日まで計4回開催）
23年 8月18日	市議会：都市集客施設調査特別委員会 基本的方針の公表
23年 9月1日	都市集客アドバイザー設置・アドバイザー会議開催（24年5月まで計4回開催）
23年12月20日	基本計画策定業務プロポーザル選定委員会
24年 5月17日	競馬場跡地利活用基本方針に関する群馬県知事・高崎市長共同記者会見 ・競馬場跡地に複合体的コンベンション施設を県が整備する方針が発表され、大規模な国際会議や展示会等のコンベンション施設については、県の構想に委ねることとした。
24年 8月9日	パブリックコメントの実施（～9月7日）（120名・276件）
24年 9月4日 ～27年 1月21日	都市集客施設整備市民懇談会（委員24名）の開催 委員（観光協会会長，商工会議所副会頭，市民音楽連盟理事長，市医師会会長，市農業協同組合代表理事組合長，食品衛生協会会長，連合高崎顧問，高崎アートインキュベーション推進協議会，群馬交響楽団，JR高崎支社支店長，高崎信用金庫会長，市区長会会長，市くらしの会会長，高崎マーチングフェスティバル協会顧問，大学教授，日本舞踊家，高崎学検定運営委員会委員長，高崎音楽祭委員会副会長，高崎市民吹奏楽団団長，高崎女性経営者研究会会長，公募市民など）
25年 9月27日	高崎文化芸術センター設計者選定プロポーザル公告 延床面積：25,000㎡，概算建設費：160億円 設計者選定委員会を経て，設計者を決定
26年 9月8日	高崎文化芸術センター及び新体育館建設・運営アドバイザー会議の開催
27年 1月21日	市議会：都市集客施設調査特別委員会 高崎文化芸術センター（仮称）基本設計概要の説明
27年 2月5日 2月9日	近隣住民説明会：城東コミュニティセンター（31名） 近隣住民説明会：北双葉町公民館（30名）
27年 4月21日	栄町駐車場舗装等解体工事（4/22～6/19）
27年 7月1日	文化財発掘調査開始
28年 1月15日	高崎文化芸術センター（仮称） 実施設計概要の公表
28年 6月21日	市議会 工事請負契約議案の説明
28年 7月14・15日	近隣住民説明会（24名・20名）
28年 8月2日	建設工事起工式



5 高崎芸術劇場の概要



施設概要

用途：多目的ホール
 階数：地上8階，地下1階
 建築面積：8,826.01㎡
 延床面積：27,355.15㎡
 高さ：38.47m
 設計：(株)佐藤総合計画

大劇場概要

客席：2,026席，車椅子4席，
 1階席，2階席，LR席
 客席寸法：前後間隔950mm，幅520mm
 多目的ホールあり
 舞台：間口28～18m，奥行18m
 高さ14～11m
 舞台機構：オーケストラピット，
 客席可動壁，音響反射板，
 吊物バトン，照明バトン



スタジオシアター概要

客席：3間舞台567席，車椅子1席
 5間舞台465席，車椅子1席
 7間舞台388席，車椅子1席
 平土間利用
 舞台：間口18m，奥行（可変対応），天井有効8m
 舞台機構：舞台迫，移動観覧席，
 吊物バトン，照明バトン



音楽ホール概要

客席：413席，車椅子2席，音楽専用ホール
 客席寸法：前後間隔950mm，幅520mm
 主舞台：間口12m，奥行6m
 舞台機構：吊物バトン，照明バトン



【射水市】

新湊大橋（臨港道路富山新湊東西線）整備事業について

1 伏木富山港（富山新港）の概要

- ・伏木富山港は、本州日本海沿岸の中央部に位置し、恵まれた地理的条件により、古くから日本海側の重要な港として栄え、昭和61年に特定重要港湾（平成23年度より国際拠点港湾）に指定された。
- ・伏木、新湊、富山地区の3地区から形成され、富山県を中心に北陸地方の物流拠点として極めて重要な役割を果たしている。
- ・平成23年11月に「国際海上コンテナ」、「国際フェリー・国際RORO」、「外航クルーズ（背後観光地クルーズ）」の機能別拠点港として選定され、これまでの機能に加え、総合的に機能強化を図り、日本海側港湾をリードする「総合的拠点港」として選定された。



伏木地区

小矢部川の河口港として古くから発達した港であり、背後地には石油配分基地等の工業地帯を形成。平成18年3月には国際物流ターミナルが完成し、大型船舶の入港に対応した物流機能を備えている。
29年貨物取扱量：93万トン

【主な取扱貨物】

輸出：完成自動車、金属くず
 輸入：原塩、石炭、石油製品、金属鉱
 移出：水、紙・パルプ、非鉄金属
 移入：石油製品、重油、原塩、砂利・砂

新湊地区

新しい臨海工業地帯の基幹的流通拠点として整備した港であり、外貿コンテナに対応するための国際物流ターミナル等の物流機能に加え、旅客船ターミナルや海王丸パークなどの交流機能を備える。
29年貨物取扱量：429万トン

【主な取扱貨物】

輸出：完成自動車、化学工業品、化学薬品
 輸入：木材チップ、石炭、その他石油製品
 移出：その他石油製品、水、取合わせ品
 移入：セメント、鋼材、その他石油製品

富山地区

神通川の河口港として古くから発達した港であり、中古車、金属くずや生活を支えるガソリン・灯油等の石油製品などを扱う物流機能に加え、運河を生かした市民の憩いの場としての機能を備える。
29年貨物取扱量：147万トン

【主な取扱貨物】

輸出：完成自動車、金属くず、産業機械
 輸入：コークス、化学肥料、製材、石炭製品
 移出：水、非金属鉱物、化学肥料
 移入：石油製品、重油、原油

【伏木富山港の港勢】

- ・29年の総取扱貨物量は669万トンで前年比105%、貿易額は3,368億円で前年比115%となっている。
- ・29年のコンテナ取扱貨物量は、前年比107.9%の76,445TEUと増加しており、主なものとしては、韓国・東南アジア向け紙・パルプ輸出が増加しているほか製材、化学薬品等の輸入増加が影響している。
- ・外航商船入港隻数は、本州日本海側で2位、また、対ロシア輸出貨物量は全国最多の約36%となっている。

コンテナ定期航路

(4航路22便/月)

航路別	便数
ロシア極東航路	月2(1社)
韓国航路	週1(5社)
中国・韓国航路	週1(3社)
中国航路	週1(1社)

2 射水市のこれまでの関わり及び経緯

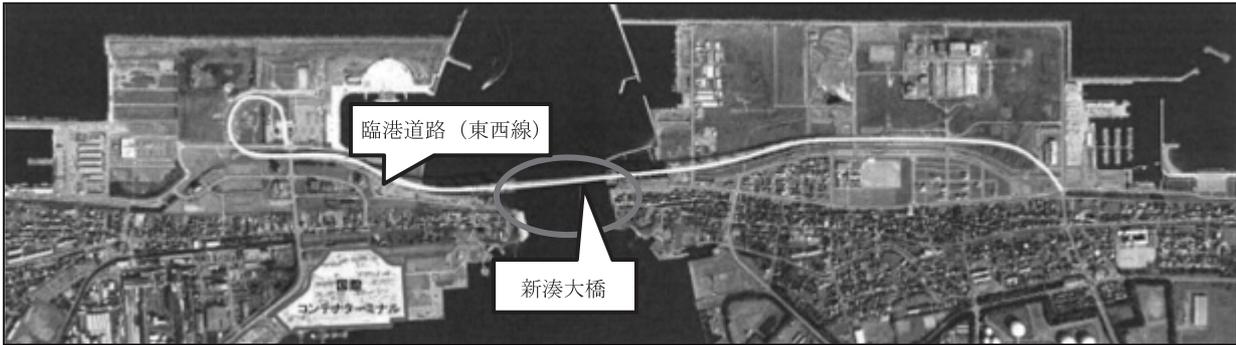
富山新港の開港によって、港口が切断されたことによる地域住民の利便性の確保、また、より高度な港湾機能の充実と広域経済交流の拡大に対応するため、富山新港の港口に連絡橋を建設することを目的に、昭和57年12月9日「富山新港港口連絡橋建設促進期成同盟会」を設立し、国・県及び関係機関に対し、早期建設の陳情や要望活動を展開した。昭和62年6月には「新湊大橋建設期成同盟会」に名称を改め、平成14年11月4日に「臨港道路富山新港東西線」として事業着工されたことを受け、「臨港道路富山新港東西線整備促進同盟会」に名称を変更。その後も早期完成に向けた要望活動等を展開し、24年9月に臨港道路富山新港東西線の完成を迎え、当初の目的を達成したことから、25年3月に解散。

年 月	内 容
昭和42年11月	富山新港港口切断，県営渡船就航
昭和43年4月	富山新港開港
昭和57年12月	「富山新港港口連絡橋建設促進期成同盟会」設立
昭和61年6月	港湾計画が改訂され，臨港道路東西線として計画
昭和62年6月	「新湊大橋建設期成同盟会」に名称変更
平成9年	実施設計調査費が計上され，各種調査が実施される
平成13年7月	北陸地方整備局事業評価監視委員会で「事業継続」と判断される
平成14年11月	臨港道路富山新港東西線着工式・祝賀会
平成15年2月	「臨港道路富山新港東西線整備促進同盟会」に名称変更
平成19年11月	臨港道路富山新港東西線の名称が「新湊大橋」に，自転車歩行車道の名称が「あいの風プロムナード」に決定
平成24年9月	新湊大橋開通記念イベント（供用開始式典後，午後から一般開放）
平成24年12月	新湊大橋ライトアップ点灯式
平成25年3月	「臨港道路富山新港東西線整備促進同盟会」解散

3 臨港道路（富山新港東西線）の概要

- ・新湊地区は「国際拠点港湾 伏木富山港」の中核を担う地区。元々は、放生津潟を東西に分断して開発した掘込港湾であり，増大する外貿コンテナ貨物を中心とした物流の円滑化や効率化を図り，伏木富山港3地区の東西連携の強化と東西に分断された地域を結び，港湾利用者のアクセス向上及び地域住民の利便性向上を図る必要がある。

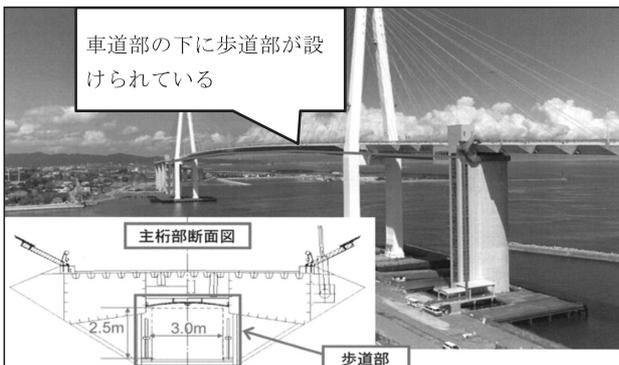
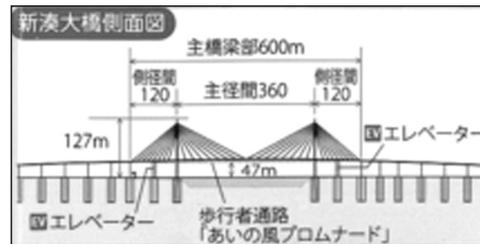




- 【起点・終点】臨港道路北線～国道415号
- 【延長】約3.6km（内、主橋梁部600m）
- 【幅員】橋梁部：1.25-3.5-3.5-1.25（9.5m）
- 【主塔の高さ】127m。2本の主塔から72本のケーブルで橋桁を支えている
- 【海面から橋桁までの高さ】約47m
- 【最急縦断勾配】4%
- 【構造規格】4種1級
- 【全体事業費】485億円
- 【経過】昭和61年度：港湾計画改訂
平成9年度：設計・調査開始
平成14年度：現地着工
平成24年9月：車道部供用開始
平成25年6月：歩道部供用開始

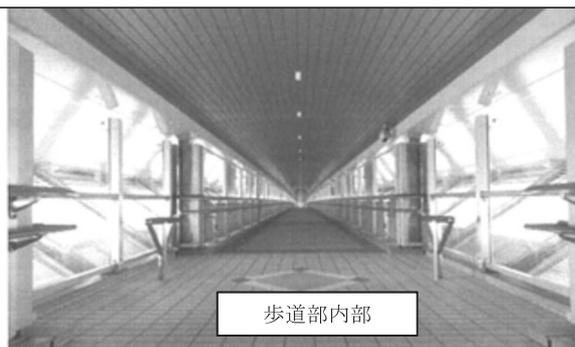
特徴

- ・日本海側最大級の斜張橋
- ・斜張橋の橋梁美を生かした周囲と調和する美しくシャープなデザイン
- ・日本海側の気候に配慮した主部構造（耐風安定性確保、全天候型の歩道部）



歩行者通路「あいの風プロムナード」

いつでも通れるように耐風、耐震対策を行った全天候型。徒歩約7分（480m）。
 利用時間：（11月～4月）午前6時～午後8時
 （5月～10月）午前6時～午後9時
 ※監視カメラ29基設置





エレベーターホール

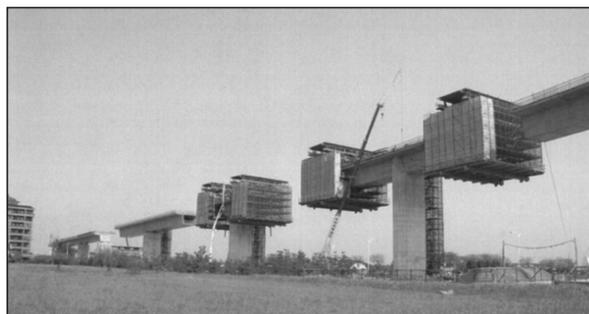


歩道部内の展望スペース

【参考】施工の概要



国内最大深のニューマチックケーソン施工（主塔基礎）



アプローチ部の架設



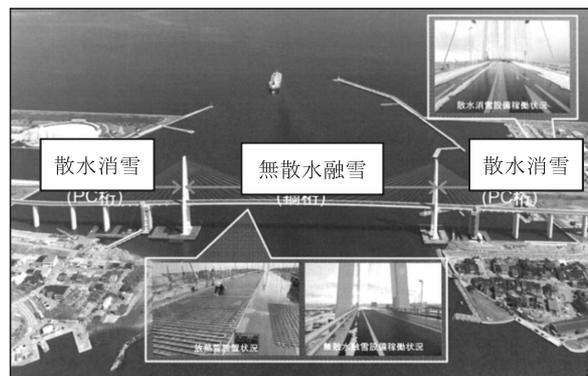
主塔 大ブロック（上部）の架設



主桁の張出し架設



中央閉合



舗装及び消融雪設備

4 期待される効果

- ・港湾関連車両の走行時間、走行距離の短縮
- ・臨港道路と連結する国道など既存道路の混雑緩和や輸送距離短縮に伴うCO₂排出量の削減
- ・海王丸パークなど周辺施設へのアクセス向上
- ・富山新港に伴い分断された東西地域が再びつながることによる地域住民の利便性の向上
- ・東西埋立地の一体開発の促進、地域観光各所への利用促進



5 その他（富山新港開港50周年）

- ・伏木富山港（新湊地区）は平成30年に開港50周年の節目を迎えたことから、記念式典や記念イベントのほか、各種団体が実施する事業・イベントと連携することで富山新港のさらなる発展に向け取り組んでいる。

【30年度の主なイベント】

年 月	内 容
4月11日	海王丸パーク展望広場供用式典
4月28日	国際物流ターミナル拡張竣工式典
5月3日～6日	ちびっこ天国in海王丸パーク
5月12日	クルーズ客船寄航・歓迎式典（ぼしふいっくびいなす）
6月20日	クルーズ客船寄航・歓迎式典（にっぽん丸）
7月～12月	開港50周年記念巡回パネル・写真展
7月11日	記念式典
7月14日	港湾業務艇による海上見学会
7月14日～16日	海王丸パークフェスティバル
7月29日	富山新港花火大会
9月23日	新湊大橋の“てっぺん”を歩こう